

12:22 それから弟子たちに言われた。「だから、わたしはあなたがたに言います。いのちのことで何を食べようかと心配したり、からだのことで何を着ようかと心配したりするのはやめなさい。

12:23 いのちは食べ物よりたいせつであり、からだは着物よりたいせつだからです。

12:24 鳥のことを考えてみなさい。蒔きもせず、刈り入れもせず、納屋も倉もありません。けれども、神が彼らを養ってくださいます。あなたがたは、鳥よりも、はるかにすぐれたものです。

12:25 あなたがたのうちのだれが、心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか。

12:26 こんな小さなことさえできないで、なぜほかのことまで心配するのですか。

12:27 ゆりの花のことを考えてみなさい。どうして育つか。紡ぎもせず、織りもしないのです。しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。

12:28 しかし、きょうは野にあって、あすは炉に投げ込まれる草をさえ、神はこのように装ってくださるのです。ましてあなたがたには、どんなによくしてくださることでしょう。ああ、信仰の薄い人たち。

12:29 何を食べたらいいか、何を飲んだらいいか、と捜し求めることをやめ、気をもむことをやめなさい。

12:30 これらはみな、この世の異邦人たちが切に求めているものです。しかし、あなたが

たの父は、それがあなたがたにも必要であることを知っておられます。

12:31 何はともあれ、あなたがたは、神の国を求めなさい。そうすれば、これらの物は、それに加えて与えられます。

12:32 小さな群れよ。恐れることはありません。あなたがたの父である神は、喜んであなたがたに御国をお与えになるからです。

12:33 持ち物を売って、施しをなさい。自分のために、古くならない財布を作り、朽ちることのない宝を天に積み上げなさい。そこには、盗人も近寄らず、しみもいためることがありません。

12:34 あなたがたの宝のあるところに、あなたがたの心もあるからです。

「だから…言います。」というのは、財産よりもいのちが大切であり、神の前に富む者となることが重要であるから…という前の内容を受けたものです。ここで「いのちのことで…心配するのはやめなさい。」というのは、肉体のいのちのことです。永遠のいのちがあるからこそ、「おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。」ということがあっても安心であり、また永遠の神の前に富む者になることもできるのです。

そして、「永遠のいのちとは神との永遠の愛の関係である」ということを考えれば、鳥やゆりよりも愛されている私たちが、地上にあって安心なのだと分ります。主に全くゆだねてほしいようなのです。

主の働きのためには自分は豊かになりたいのだ…という人がいたとしても、主は「恐れることはありません。あなたがたの父である神は、喜んであなたがたに御国をお与えになる」と言っておられます。自分が富むことが主の働きの条件ではありません。むしろ、神を知っている者は「宝を天に積み上げ」ます。そこから主の助けが与えられ

るからです。

自分の人生も、教会も、教会の小グループも、天に宝を積み上げましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

